

中国空軍ホットニュース：中国が改良型航空エンジンを獲得

漢和防務評論 20131224(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国は、エンジンがネックとなって戦闘機の開発生産が制約を受けていることは、広く知られています。

漢和防務評論（20131224）に、中国が主力エンジンのオーバーホール整備のため、ロシアにエンジンを送り返しているとの記事がありましたので紹介します。ロシアのしたたかさを感じますが、戦闘機でも空母でも見せかけを迫及する中国にも問題があります。

エンジンがなければ戦闘機は粗大ごみです。このような背景から中国空軍は仕方なく故障の多い国産の WS-10A エンジンを搭載する戦闘機を増やしているのでしょうか。戦闘機の可動率はロシアに牛耳られているのか。

KDR モスクワ平可夫特電：

2013 年 3 月 29 日撮影の衛星写真を見ると、不思議なことに、成都の第 132 航空機工場の飛行場には新たに生産された J-10A が全く見られなかった。一年ごとに更新された衛星写真を見ると、同飛行場には必ず新たに生産された J-10A が並んでいた。J-10A の減産が始まったのだろうか？或いは、J-10B の生産に転換したのだろうか？この件に関してロシアの SALUT エンジン会社の消息筋は、中国が獲得した AL-31FN エンジンについて語った。

”我々は、今年だけで、100 台近い整備した AL-31FN エンジンを中国に輸出した。来年もさらにまとまった数量の AL-31FN エンジンを輸出するだろう”と。SALUT エンジン会社の上述の証言は、中国が今後さらに多くの J-10（J-10A 或いは J-10B）を生産するつもりであることを示しているのか。当然ロシア側は知らされていない。KDR の分析では、次の段階は J-10B の生産が主になる可能性が極めて高い。なぜなら第 3 世代戦闘機の数が依然として不足しているからである。原材料の供給、特に複合材料の不足が J-10A/B の生産速度を遅らせている。この点は KDR が過去に何度も報道した。

KDR と SALUT の質疑応答

KDR：中国は、ウクライナから AL-31F エンジンのオーバーホール機材を輸入した。中国は、成都の工場ですらこのエンジンの整備が出来るようになったのではなかったのか？なぜ又 SALUT の整備支援が必要なのか？

SALUT：それは違う。AL-31F と AL-31FN では技術レベルが違う。したがって AL-31FN は、整備及びオーバーホールに関して依然我々の支援が必要だ。一部のエンジンは、整備のためロシアに送り返す必要がある。したがって今年、我々は整備した 100 台近くの AL-31FN エンジンを中国に輸出したのである。

同消息筋は、” 中国が輸入する AL-31F エンジンの数量は逐年減少しているが、その中でも約 20 台は新造の AL-31F エンジンである” と述べた。

このことから中国空軍の J-11B 以降の戦闘機は、確かに中国国産の WS-10A 型エンジンを多用するようになっている、と見る事が出来る。

” 我々は、今年、初めて中国に AL-31F の改良型である AL-31F S42 エンジン、すなわち AL-31FM1 を輸出した。このエンジンは、アフター・バーナー・スラストが AL-31F の 12500KG から 13500KG に、ミリタリー・スラストが AL-31F の 7770KG から 8250KG に増加した。燃費も向上し原型 AL-31F の燃費 0.78KG/KGF.H から 0.77KG/KGF.H に向上した。吸入空気量も 112KG/SEC から 118KG/SEC に増加し、ファンの直径も 905MM から 924MM に増加した。重量は 1490KG から 1520KG に増加した”。AL-31FM1 の使用寿命は 4000 時間に増加した。ロシア空軍は、この AL-31FM1 を SU-27SM と SU-34 に搭載している。

今後 AL-31F を搭載した中国戦闘機は、例えば J-15 等は AL-31FM1 に換装される可能性が高い。しかも中国人は、この AL-31 シリーズのエンジンの改良方法を知りたがっている。そして同じ技術で WA-10A を改良し、WS-10A の推力を逐次向上させたいと願っている。もし KDR の予測に誤りが無ければ、後期生産の J-20 型ステルス試作機は AL-31FM1 を搭載する可能性があり、そうすると推力が 1000KG 増加するので性能向上につながるかのかどうか。

” 中国は、AL-31FM1 エンジンを導入するが、スラスト・ベクター・ノズルは導入しない” と消息筋は述べた。KDR はこの点が理解できない。AL-31FM1 は元々スラスト・ベクター・ノズルが一体となっている。

KDR の分析では、推力が 1000KG 増加すると、航空機の機動性が大幅に向上する。現在 J-15 だけが多くのロシア製エンジンを使用している。J-11A や SU-30MK2、SU-30MKK は改良された AL-31FM1 を搭載できない。中国はすでに十分な数の AL-31 を保有している。 以上